

平成 27 年 3 月 30 日 作成 中新信彦

平成 27 年 3 月 30 日 修正 中新信彦

ビーム物理領域インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会世話人会) 議事録

日時：平成 27 年 3 月 22 日（日） 17:30 ～

会場：早稲田大学早稲田キャンパス 1 4 号館 401 (DE 会場)

出席者（順不同・敬称略）

濱、余語、鎌田、平田、日出、保坂、野田、中尾、庄司、中村、岩下、神野、原田、上坂、清宮、境、紀井、川瀬、宮本（篤）、佐々木、栗木、柏木、柴田、加藤、菅、羽島、井上、坂上、山本、中新

司会：山本

書記：中新、坂上

配布資料：

2015S-1: 前回議事録

2015S-2: ビーム物理研究会 2014 報告

2015S-3: DRAFT Resolution of the XXVIIIth General Assembly IUPAP

議事内容：

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
 - 2-1 日本物理学会ビーム物理領域関連
 - 2-2 ビーム物理研究会関連
 - 2-3 日本加速器学会関連
3. その他

1. 前回議事録確認

平成 25 年 8 月 11 日に開催されたビーム物理研究会世話人会（第 11 回日本加速器学会年会、リンクステーション青森）の議事録について確認され、承認された。

2. 報告・審議事項

2-1 日本物理学会ビーム物理領域関連

一般講演について

過去 10 年間における春の物理学会での一般講演数の推移、今 2015 年大会における他領域との講演数の比較、所属機関別内訳、2014 年大会・2015 年大会における他領域との合同セッション発表件数の内訳が報告された。一般講演件数には合同セッションを含む講演件数がカウントされる。前回 2014 年大会では 78 件（合同を含まない場合は 55 件）であったのに対し、今 2015 年大会では 133 件（合同を含まない場合は 72 件）に増加したことが報告された。そのうちシンポジウム 2 件での講演が 15 講演あった。

- 講演数は各領域中「物理と社会」を除きワースト 2 であった。
- 研究所関係からの講演数が少なかった。（J-PARC 関連は領域 2 で発表）
- 領域代表上坂氏から各機関代表宛に発表数増の依頼メールを送付していただいた。
- 今大会は立地がよかったためか全領域において講演数が増加傾向にあった。

他領域との合同セッションについて

前回大会では 69 件（ビーム物理の寄与：28 件）、今回は 46 件（ビーム物理の寄与：24 件）であった。6 つの合同セッションを企画したが、J-PARC と原子核素粒子実験は合同を希望せず領域 2 を希望するものが多く開催しなかった。ビーム物理主催で SuperKEKB・BelleII・ILC、ミュオン・中性子・陽電子の 2 セッションを開催した。領域 2 との合同分（レーザー・プラズマ加速、イオントラップ・非中性プラズマ・レーザー冷却）は年度ごとに主催を交代していて、今回は領域 2 主催で開催された。

招待・企画講演について

前回大会では、1 件の企画講演を実施、今大会でも 1 件の企画講演（領域 2 主催、ビーム物理共催）を実施した（以上に若手奨励賞受賞記念講演を含まず）

シンポジウム講演について

前回では主催 1 件、共催 2 件を実施、今大会では主催 1 件、共催 1 件を実施した。

来春のシンポジウム案について

- 次回の加速器学会の世話人会で議論するので、それまでにご提案ください。

若手奨励賞受賞記念講演について

今大会の受賞者：2名

日本原子力研究開発機構の原田寛之氏、放射線医学総合研究所・中尾政夫氏が受賞したことが報告された。

- 若手奨励賞を共同開催している素粒子実験領域から発表資料の KEK のサーバー (Indico) での公開を提案され、受賞者の同意のもと公開することになった。掲載する資料は編集したものでも良い。

- 次の若手奨励賞については応募締切の日程がまだ決まっていないが、博士論文も審査対象になるので積極的な応募を。

来年度大会までのスケジュールについて

- 次回の秋季大会のシンポジウム等申し込み締め切りについてリマインドされた。素核宇分野は大阪市立大学で、物性分野は関西大学で開催される。秋季大会ではビーム物理領域主催のセッションは開催されない。

- 次回年次大会は東北学院大泉キャンパスで 2016 年 3 月 19 日～22 日に開催される予定。

執行部と事務局の確認

2015 年 4 月から執行部が交代し、ビーム物理研究会会長・日本物理学会ビーム物理領域代表に佐々木氏 (広大)、副会長・副代表に羽島氏 (JAEA) が就任することが確認された。任期は 2 年。

- ビーム物理研究会

会長：佐々木茂美 (広大)

副会長：羽島良一 (JAEA)、上坂充 (東大)

- 日本物理学会ビーム物理領域

会長：佐々木茂美 (広大)

副会長：羽島良一 (JAEA)

- 事務局

国立大学法人広島大学放射光科学研究センター 放射光物理研究室

次期領域運営委員について

2015 年 10 月から 2016 年 9 月の任期を担当する次期運営委員として、京都大学化学研

究所の井上峻介（いのうえしゅんすけ）氏が推薦され、承認された。

2-2 ビーム物理研究会関連

ビーム物理研究会・若手の会について

紀井氏より（添付資料 2015S-2）

京都大学主催でみやづ歴史の館文化ホール（京都府宮津市）において、11月25, 26, 27日で開催され、参加総数31名で前回の沖縄開催に比べ少し人数が減ったが、成功裏に終了したことが報告された。

- 講演数は例年通り（若手2件、一般講演6件、招待講演2件）
- 若手の会。学生中心の研究紹介・研究機関紹介・ポスター発表・レクチャー（PIC）
- 参加者はレプトン系が多く、ハドロン系（招待講演のみ）が少ないので幅広く開催したい。例年固定化しているのも、より広い研究分野の方に声をかける必要がある。今回、土田先生（京大）に依頼し、奈良女子大にも声をかけたが都合がつかず参加がなかった。
- 人数が少ないため「若手の会」だけでの「夏の学校」スタイルの単独開催は現状難しい。
- 幅広い分野の学生の参加を得るには旅費のサポートが重要。優秀発表賞・ポスター賞などを作り、学生が参加しやすいようにしたい。

[企画について]

- APS との合同セッション@ハワイの企画は可能か？
- ビーム物理教育について議論をする場をビーム物理研究会にも用意したい。
- ヨーロッパのビーム物理委員会の研究会がゲーテ大学で開催された。ヨーロッパの大学関係、各加速施設の関係者が参加。アメリカと日本から一人ずつ、日本からは鎌田氏が参加した。加速器関係の社会的認知を高める会議であったことが報告された。

上坂氏より

来年度の開催は東大主催、JAEA、KEK 共催で東海村いばらき量子ビーム研究センターにおいて11月26日～28日に開催予定である旨が報告された。宿舎は東大やよい研究員宿舎、J-PARC の宿舎、東大物性研の宿舎を用意。土曜日の若手の会はやよい研究員宿舎で開催する。

- 若手の会の運営に関しては若手の会のメンバーと相談・協力して行う。若手の会は柏木氏が発起人で、現在、宮本氏、紀井氏、全氏主体で運営している。

2-3 日本加速器学会関連

第12回日本加速器学会年会のお知らせ

会期：2015年8月4日（火）～7日（金）

会場：プラザ萬象/あいあいホール（福井県敦賀市）

発表申込期間：2015年4月6日～5月18日

参加申込期間：2015年5月

プロシーディングス提出締め切り：2015年7月

会期中ビーム物理研究会世話人会を開催する予定です。

3. その他

IUPAP 提案の加速器物理に関する新しいコミッションについて

黒川氏より（添付資料 2015S-3）

黒川氏が体調不良で欠席のため、後日黒川氏に内容の確認を行うことになった。IUPAPの下に ICFA とは違う新しいパネルを作るという提案。ICFA は高エネルギーを専門とするため、原子核物理などの様々な領域を含めた加速器関連で独立なものを作る。

次回の総会・世話人会

世話人会：2015年8月4日～7日 プラザ萬象（福井県敦賀市）で開催される日本加速学会会期中に実施する予定。

総会：2016年3月19日～22日 日本物理学会年次大会（東北学院大学）会期中に実施予定。

ビーム物理研究会の HP に関して

宮本氏（広大）より

サーバーの管理は KEK の佐藤氏、Web の内容の管理は宮本氏一人が行っている。宮本氏が4月から民間企業に移られるので代わりの担当者を募集中。

IUPAP 関連

上坂氏より

IUPAP（純粋応用物理の国際組織）の下に ICFA、その下に Beam Dynamics がある。施設紹介のページがあるので作成をお願いします。後日、依頼メールを送付予定。

西川記念シンポジウムについて

上坂氏より

●西川記念シンポジウムは別で開催されていたが、物理学会での開催のほうが加速器以外の幅広い分野の方が参加してくれるのではないかという意見があり、野崎先生中心で物理学会での開催を企画し、領域委員会で議論していただいた。恒常的に個人名のシンポジウムを置くのは適切ではないが、その都度の提案で副題であれば問題ないということで開催が認められた。

●来年の企画を募集中。提案は9月頃で、加速器学会のインフォーマルミーティングで議論するので、ぜひ良い企画の提案をお願いします。加速器本体だけでなく応用も含めた企画でシンポジウムを開催したい。今回は加速器と検出器の相乗効果のセッションを西川記念シンポジウムとした。

PTEP について

PTEP（やPASJ）へのビーム物理を含めた加速器の論文の積極的な投稿を推進したい

- 投稿論文が増加中。現在 PTEP の Impact Factor は 2.8。
- 前身の PTP の論文はノーベル賞も受賞している

以上